

672
2016年
7月発行

よろこびの泉

わたし(イエス・キリスト)が与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。私がお与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。
新約聖書 ヨハネ4:14



白いヤマボウシ

微笑み

河野 進

- どのような苦しみにも 暖かい微笑みを
- どのような悲しみにも 明るい微笑みを
- どのような恐れにも たじろがない微笑みを
- どのような不安にも 和やかな微笑みを
- どのような誤解にも 思いやりの微笑みを
- どのような憎しみにも やわらぎの微笑みを
- どのような冷たい目にも 親しい微笑みを
- どのような裏切りにも 黙って微笑みを

河野進詩集「萬華鏡」より

発行所 奈良県生駒市門前町七-四〇 日本ミッション
〒630-0266 電話〇七四三(七三)一七五四 振替口座〇〇九三〇二六六四二番

発行人 日本ミッション 編集者 日本ミッション 編集部

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
〒350-0303 新生宣教師印刷部
電話〇四九(二九六)〇七二七

一年分 送料共 九〇〇円
定価 一部 一八円

質問箱

問 僕は辛いことがあって悩んでいます。毎日聖書を読んでイエス様の言葉を実行しようと思ってるのですが、敵対する人が僕を取り囲んで「そんなことは出来ない」と囁く声があります。心に平安が欲しいです。

答 イエス様が地上にいられた二千年前にも、心に悩みを持つ人は大勢いました。そしてイエス様は「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、私のところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイ11:28)と語りかけました。この言葉を聞いて文字通り信じ受け入れた人たちは、心の悩みがたちどころに消え、平安に満たされたのです。

それから今日まで、この言葉を聞いて(読んで)イエス・キリストを信じ、心に休みが与えられた人はどれくらいいるのでしょうか。毎日聖書を読んでおられるというあなたは幸いですね。しかし聖書を読み進め、その意味が分からず、神様が与えようとしている大きな愛を実感できないからと、読み始めた聖書を投げ捨ててしまう人がいかに多いことか、残念に思います。

聖書は実行することから始めて心の平安を得るのではなく、素直に信じて、揺るがぬ平安と救いをご自分のものにしてください。(見玉 博之)

親子のしあわせ 384

ある土曜日に一軒のお宅を尋ねました。すると小学生の娘さんが出てきて「お母さんはお仕事。お父さんが今ドーナツを作ってるよ」と言いました。「えっ、お父さんが?」「うん、ホットケーキを作ると言ったけど、ドーナツになった。油を使われてて手が離せないというのでお父さんとはお会いせずに帰りましたが、なんだか心の中が嬉しくなりました。

幼稚園の子どもの中にも、「このお弁当、お父さんが作った」と嬉しそうに話す子が時々います。お父さんが子育てに参加し、家事を共にしているなんて素敵です。我が家でも私がいなくて、娘のお弁当を主人が作りました。プロッコーリを茹でずにそのまま入れて、「堅かった」と娘に言われ、ゆでることを学びました。(ゆでずに食べるお宅もあるかも? 我が家はゆでます。)今は楽しい思い出です。また主人はラーメンを作るのが上手で、ラーメンは主人にお願いします。「〇〇はお父さんが上手だよ」とか



「日曜日のお昼ご飯は、お父さんが作る」と教えてくれる子どももいます。その事をお母さん方に伝えると、「片付けはしないですよ」「材料からこだわることからお金がかかる」とぼやかれませんが、なんだか楽しそうです。子どもは、お父さんが作る料理を待っています。上手じゃなくてもいいのです。したことがないかもしれませんが、是非してほしいと思います。その時、お母さんはけなさないことです。子どもは、お母さんの反応を見ています。多少味が薄くても一生懸命してくれたことに感謝しましょう。きつと次は上手になりますよ。

聖書の中にも、イエスさまが魚を焼いてお弟子さん達と食べられた記述があります。食事は家族団らんの楽しいひとときです。夏休みの中の一日、そんな風に過ごすのもいいかもしれません。

「またすべての人が食い飲みし、そのすべての労苦によって楽しみを得ることとは神の賜物である。」(伝道の書3:13) (相原 幸紀美)

*この「よろこびの泉」は、統一協会、エホバの証人、モルモン教のものではありません。これらの問題でお困りの方は、上記の教会にご連絡ください。

最も尊い働き〜神をほめたたえる生涯に〜

兵庫県西宮市 菅原 早樹

父は落語家、二代目露の五郎兵衛。その家に生まれた私は、芸能界を目指して身上海。演劇の専門学校に入り楽しく過ごしていたのですが、ある時からふと心に苦しさを覚えるようになりました。ヒューマニストを自認し、人間の愛の力を信じていた私だったのに……と。



▲広畑キリスト教会、クリスマスランチョンにて

目標を持って生きるということや、人道的に道徳的に生きることや、い時からよく教えられていました。ですから父のことにしても、自分でも気が付かないうちにともプライドを持っていました。

そういうプライドが鼻についたのか、中学一年生の時、いじめに遭いました。当時のいじめは今のよう陰湿ではなかったと思いますが、自分のクラスだけでなく他のクラスの男子からも「臭い、汚い」と避けられ、輪ゴムパチンコの標的にされ、体育の授業が終わって教室に戻ると、机がひっくり返されて中のものがぶちまけられていたこともありました。

そんな中、いつしか私は、傷ついたり、いじめたりした奴らを見つめ返してやろうと思うようになっていきました。

芸能人を目指して

芸能人の家に生まれ、芸事に親しんできた私と

目標を持って生きるということや、人道的に道徳的に生きることや、い時からよく教えられていました。ですから父のことにしても、自分でも気が付かないうちにともプライドを持っていました。そういうプライドが鼻についたのか、中学一年生の時、いじめに遭いました。当時のいじめは今のよう陰湿ではなかったと思いますが、自分のクラスだけでなく他のクラスの男子からも「臭い、汚い」と避けられ、輪ゴムパチンコの標的にされ、体育の授業が終わって教室に戻ると、机がひっくり返されて中のものがぶちまけられていたこともありました。そんな中、いつしか私は、傷ついたり、いじめたりした奴らを見つめ返してやろうと思うようになっていきました。

自分自身に気づいて

私はそれまで、自分は結構きちんとした人間だと思っていました。進学校に行った訳ではありませんが、大して勉強しなくてもいつもそこそこの成績が取れ、親にも厳しく躰られ、大人の中で育った私は一般常識も備えていると自負していたのです。しかし東京で一人暮らしをしているうちに、だんだん本当の自分がさらけ出されてきたのです。

いい加減で嫉妬深く、お酒を飲んでは友人たちと他の仲間達の悪口大会をしている。少しも大人びた人間ではありません。こんなしょうもない人間である私にいったい何ができるのか。人を信じたいのに信じられず、自分自身さえも信じられなくなっていました。

そんな思いが頭の中で堂々巡りしていた時、ふと、以前友人に誘われて行った教会のことが思い出され教会に行くべきだと感じたのです。そしていつも私を教会に誘って下さっていた女性に電話をかけました。

その方は、教会に行く電車の中で、イエス・キリストが私の醜い心を知っておられ、そういう罪深私のために十字架に掛かり、三日目によりがえってくださったという事実、そしてそれを信じるだけで罪が赦され永遠の命が与えられるということを知って下さいました。「信じますか」と聞かれた時、頭で考えるより先に、「信じます」と答えていました。理想はあっても汚い競争社会に生きることに限界を感じ、また自分の心の醜さを十分実感しながら、そこから抜け出す力が私にはないことを知っていたからです。

変化・イエスさまに任せて

それ以来、私の人生は変わって行きました。以前は「伝えるべき何か」が曖昧で、何か「良いこと」を人に伝えたいと思っているのに、それが分かりませんでした。しかし、今は「イエス・キリストの福音」という伝えるべき真理を知っています。私は、有名になり人に褒められるという目標を捨てて、イエス・キリストを伝えていることと思うようになりまし。 (いつしか、自分をいじめた人々に対する恨みの執念は消えていきました。)

更に私は、自分の全てをイエス様にお任せする決心をし、イエス様の導いてくださる通りに歩み、全てを神様のものとして歩んで行く決心をしたのです。

一九八四年二月、洗礼を受けました。洗礼式には、洗礼に反対をしていた母が出席してくれたことは大きな喜びでした。

その後、家族に神様の事を伝えることは神様からの使命だと受け止め、東京から西宮の実家に戻りました。双子の姉はすぐにイエス様を信じ、二十年後、両親もイエス様を信じて洗礼を受けました。落語家であった父は七十七歳で亡くなるまで、たっさんの教会や集会でキリストの証人としてお話をさせて頂くことができました。

神をほめ讃えて

私自身、イエス様を信じてからも紆余曲折はありましたが、神学校にも行き、私にしかできない働きが与えられてきたことには感謝する他ありません。



「人の心は何よりも陰険で……直らない。」エレミヤ17:9

人(クマ)は かようにして身勝手な生き物。

「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」(詩篇103:2)

過去を振り返った時、主が下さったことはすべて良いことであつたと確信することができました。人には弱さがあり、私にも弱さがあります。醜いところもあります。それでも尚、神様は愛し、こんな私に良くしてくださるのです。ただ感謝し神を誉めたたえます。

現在、牧師の夫とともに、教会の働きをさせて頂くと同時に、演劇学校時代から学んでいた歌(賛美)を携えて東北の被災地をはじめ、あちこちの教会でコンサートをさせて頂いています。これからの色々な事があると思いますが、全ての事を益として下さる主に信頼して歩んでいきたいと願っています。

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益とくださることを、私たちは知っています。」(ローマ人への手紙8:28)